国際 - 1

第 11 回国際科学技術関係大臣会合の結果について

“The 11th Science and technology Ministers’ Roundtable Meeting”

平成 26 年 10 月 16 日
内　　閣　　府
政策統括官(科学技術･イノベーション担当)

1. 日　時：平成 26 年 10 月 5 日（日）　16:15～18:30

2. 場　所：国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）　Room A

3. 参加者：世界 24 ヶ国の科学技術大臣等が参加（別紙参照）

4. テーマ：科学技術イノベーション政策における公開性と透明性の推進
Promoting Openness and Transparency in Science, Technology and Innovation Policy

＜論点＞
① 各国におけるオープンイノベーション及び科学研究の公開性促進のための取組の現状如何。
② 科学技術イノベーションにおける公開性及び透明性を助長するために、各国はどのようなことを協働・協調して実施すべきか。

5. 結果概要：

(1) 山口科学技術政策担当大臣が会議の議長を務めた。冒頭、山口大臣から、
- 日本は、強固な日本経済の復興に向け、成長戦略を策定し着実に実行するとともに、特に「地方再生」と「女性が輝く社会」の実現を目指していること。
- 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、科学技術イノベーション政策の取組を加速し、世界に日本のイノベーションを発信することを目指していること。

について言及があった。

また、本会合において、参加各国の科学技術イノベーション政策における公開性と透明性の推進に関する経験や考えを共有することへの期待が示されるとともに、上記テーマ及び論点に沿って情報交換・意見交換を行いたい旨の発言があった。

(2) 次に、倉持内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）から、オープンイノベーションの概念や、公開性（オープンデータ、オープンアクセスなど）に係る世界的議論の動向、我が国の基本政策（第 4 期科学技術基本計画、科学技術イノベーション総合戦略等）に基づく取組（SIP、ImPACT）、さらに、これまでの経験を踏まえて将来に向けて取組むべき方向性等について説明があった。

(3) 続いて、議論をリードしてもらうため、以下の 3 ヶ国から各国の取組み等について説明があった。

① マレーシアのエビン科学技術イノベーション大臣から、マレーシアでは社会経済的転換及び包括的成長のために科学先進国を目指し「国家科学技術イノベーション政策（2013-2020）」を策定していること、また、オープンイノベーションを推進するため、産学官に一般国民を加えたユーザー中心のクアドルプル・ヘリックスモデル（Quadruple Helix Model）を導入したことについて説明するとともに、このモデルを地域、全世界に拡大してはどうかとの提案があった。

② 南アフリカのパンドール科学技術大臣から、南アフリカでは、政府自らオープンイノベーションの概念を取り入れ、公共サービスイノベーションセンターや科学技術イノベーションセンターにおける取組を進めるとともに、イノベーションサミットを開催しイノベーションに関する国民のアイディアを募っていることの説明や、国際的な協働・協調の重要性、とりわけ、先進国と開発途上国間の新しい科学的知見の交流の必要性について説明があった。

③ デンマークのオーダーシェド研究イノベーション政策会議議長から、デンマークのような小国においては、最大の資源たる人材を強化するには、国際共著など国際的協働が重要であること、また、オープン化を進めるには品質保証が重要であり、そのため、グリーンオープンアクセス（注）を推進していること、さらに、国際協調を促進する前提となる健全で魅力的な科学ベースとしての行動規範について説明があった。加えて、デンマークの提案により創設された欧州研究協議会（ERC）のような仕組を拡大した、国際的なリサーチ・カウンシルが創設されることへの期待を述べた。

（注）グリーンオープンアクセスは、従来の学術雑誌に掲載された論文を著者がウェブサイト（機関リポジトリ等）で公開する、いわゆるセルフアーカイブといわれる方法。これに対し、ゴールドオープンアクセスは、これまでの学術雑誌とは異なるオープンアクセス雑誌で論文を公開、流通させていこうという方法。

(4) その後、出席者の間で意見交換が行われた。具体的には、

①　科学技術における公開性の促進自体については、異論が唱えられることなく、研究活動のプロセスの改善、社会的課題や地球規模課題の解決への貢献といったメリットが指摘された。

②　科学技術においては、すべて公開性を拡大する方向に向かっているが、公開性に関しては、様々な捉え方があり、したがって共通認識が存在しないので、国際的な協調・協働を推進していくためにも、定義を明らかにしておくことの必要性について概ね共通理解が得られた。

③　参加各国から、それぞれの科学技術における公開性促進に係る取組が紹介されるとともに、公開性を一層促進するためには、制度的な枠組みや公開される情報等の品質保証の重要性を指摘する意見があった。

④　公開性と透明性を促進するに当たっての教育の重要性を指摘する意見が述べられるとともに、マレーシアから説明のあったクアドルプル・ヘリックスモデルのように市民の参加を促す仕組みの重要性については、賛同する国が多く見られた。

(5) 最後に山口大臣から、参加各国に対する謝辞が述べられるとともに、今後、一ヶ国のみでは解決できない地球規模課題の解決に向けて、参加各国間で様々な連携・協力が推進されるとともに、そのための持続可能な基盤が強化されていくことへの期待が述べられ、会議は終了した。

6.　二国間会談

山口大臣は、本大臣会合に出席した以下の大臣等と二国間会談を行った。

●ペリー科学技術宇宙大臣（イスラエル）
●パンドール科学技術大臣（南アフリカ）
●カストロ国家評議会科学顧問（キューバ）

別　紙

第 11 回国際科学技術関係大臣会合出席者（平成 26 年 10 月 5 日（日））

	国　名	氏　名	役　職
1	アルジェリア	モハメド・メバルキ	高等教育科学研究大臣
2	アルゼンチン	リーノ・サルバドール・バラニャオ	科学技術・生産革新大臣
3	オーストリア	ヘンリエッタ・イーガ	オーストリア研究促進機関　最高経営責任者
4	ブルガリア	ルミャーナ・コラロバ	教育科学大臣
5	チリ	フランシスコ・ビレヴァ	国家科学技術審議会長官
6	クロアチア	ロコ・アンドロリチェビチ	科学・教育・スポーツ副大臣
7	キューバ	フィデル・カストロ・ディアス・バラルト	国家評議会科学顧問
8	デンマーク	イェンス・オーダーシェド	研究イノベーション政策会議　議長
9	エジプト	アデル・エル・ベルタギー	農業干拓大臣
10	ドイツ	トーマス・ラヘル	連邦教育研究大臣政務官
11	イラン	ソレーナ・サッタリー	副大統領：科学技術担当
12	イスラエル	ヤコブ・ペリー	科学技術宇宙大臣
13	日本	山口　俊一	科学技術政策担当大臣
14	リトアニア	デニアス・パーバーキス	教育科学大臣
15	マレーシア	エウォン・エビン	科学技術イノベーション大臣
16	モーリシャス	ラジェシュワー・ジータ	高等教育・科学研究技術大臣
17	メキシコ	ガブリエル・トレブランカ	国家科学技術審議会副長官
18	モンテネグロ	サーニャ・ブラホビッチ	科学大臣
19	オマーン	ラウーイ・サウディ・アルサイード	高等教育大臣
20	パプワニューギニア	マラカイ・タバー	高等教育・研究科学技術大臣
21	サウジアラビア	アブドゥルアジーズ・ムハンマド・アルスワイレム	科学研究局（KACST）副局長
22	シンガポール	リム・チュアンポー	科学技術研究開発庁（A＊STAR）長官
23	南アフリカ	ナレディ・パンドール	科学技術大臣
24	タイ	ピチェット・ドゥロンジカヴェロ	科学技術大臣

第 11 回国際科学技術関係大臣会合の様子

「科学技術イノベーション政策における公開性と透明性の推進」

Promoting Openness and Transparency in Science, Technology and Innovation Policy

議長を務める山口大臣とリード国

アルジェリア
アルゼンチン
オーストリア
ブルガリア
チリ
クロアチア
キューバ
デンマーク
エジプト
ドイツ
イラン
イスラエル

議長とリード国

日本
リトアニア
マレーシア
モーリシャス
メキシコ
モンテネグロ
オマーン
パプアニューギニア
サウジアラビア
シンガポール
南アフリカ
タイ

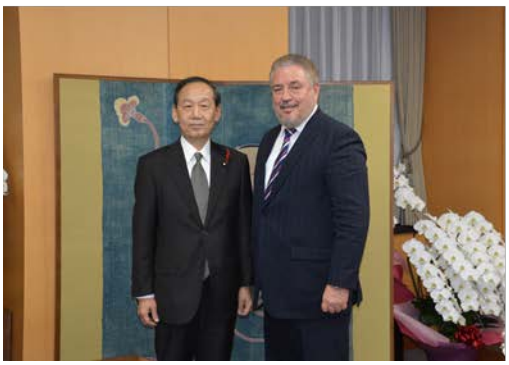
議論の様子と参加国との記念撮影

※日本を含む 24 ヶ国の科学技術大臣や科学技術顧問等が出席。

二国間会談

イスラエル：ペリー大臣

南アフリカ：パンドール大臣



キューバ：カストロ科学顧問